

2022 年度の省エネルギー対策について

慶應義塾では 2014 年度より、東日本大震災以降の電力事情、電気料金値上げへの対応および資源の有限性・環境保護などの観点から、各キャンパス単位で前年度の電力使用量ならびにエネルギー消費原単位を超過しないことを目標に様々な節電・省エネルギー対策を実施し、概ね目標を達成してきた。しかし、2020 年度から新型コロナウイルス感染症対策として大学施設の入構制限、その後、感染防止対策を十分に講じたうえで一部を対面形式の授業を再開するなど省エネルギー対策が難しい状況となっている。

今年度は、大学全体としてはおおむね 9 割を超える授業科目が対面で実施される予定であるため、昨年度の数値ではなく、新型コロナウイルス感染症の影響がない 2019 年度の使用量を目標値として以下のとおり設定する。

1 省エネルギー目標

「各キャンパス単位でエネルギー消費原単位を 2019 年度比で 1%以上低減する」

※エネルギー消費原単位

異なる単位を用いるエネルギー（電気・ガス等）の使用量を合計するために、各エネルギーを熱量換算し、その合計値を各キャンパスの延べ床面積で除して「エネルギー消費原単位」を算出する。

2 対象期間 2022 年度中

3 具体的運用例

基本方針は、昨年度までの対策を概ね踏襲するが、再生可能エネルギー導入計画とエネルギー管理ツールの利用をより具体化、新型コロナウイルス感染症対策として導入した CO2 濃度モニタリング装置を利用した効率的な換気運用を追加した。また、以下の運用については、教育・研究・医療環境を損なうことのないよう配慮しながら実施することとする。

(1) 施設改修などハード対策

ア 高効率機器採用

- ・照明設備の LED 化を促進する。（全塾で 2025 年までに完了を目指す）
- ・空調設備を高効率設備に更新する。

イ 再生可能エネルギーの導入を検討する。

- ・導入ポテンシャルの把握をする。
- ・基本計画を作成する。

ウ エネルギーの管理・分析

- ・既存エネルギーマネジメントシステムを活用し、きめ細かなエネルギー管理および分析を行い既存設備の運用改善、省エネ化改修の検討を進める。

(2) 運用などソフト対策

ア 空調について

使用していない教室等の空調停止および適切な温度設定を行う。
（設定温度については空調運用対象期間前に別途案内）

イ 照明について

使用していない教室等の消灯および安全性と必要照度を確保し、減灯を行う。

ウ エレベーターの稼動について

利用者に支障のない範囲で一部を制限する。

エ 電気機器等について

電気温水器・暖房便座等さまざまな電気機器類について必要最低限の稼動とする。また、持込電気機器類の使用は禁止とする。

オ 教室などの使用について

利用申請のない教室等は照明ならびに空調機の稼動停止を徹底する。

教室などの CO2 濃度をモニタリングし、過度な換気を抑制することでエネルギーロスの少ない換気を徹底する。

カ 啓発活動について

見える化（電力使用グラフ）・ポスター・各自が使用しているパソコン等の電源 OFF（待機電力削減）・消灯空調停止のお願い。

キ クールビズ・ウォームビズの奨励

教職員に対して、クールビズおよびウォームビズを奨励する。

対象期間は、クールビズ 5 月 1 日～10 月 31 日、ウォームビズ 12 月 1 日～3 月 31 日

なお、ウェブサイトで公開している慶應義塾の電力使用状況（グラフ）については継続して公開する。

以上